第５回「これからの学生生活をともに考え、見守る研究会」発言録

日時：2023 年 2 月 16 日（木）18 時～19 時 30 分
属性：　〇学生、◎委員長、●教員、■マスコミ等、◆専務、▲事務局

（事務局 22 年度振り返り報告）
◎全員にお話を聞きたいので心の準備を。最初に　　先生、感想等を。31 日の件ありがとうございました。
●　　先生の代わりに記者懇談会でお話をしました。後でご覧いただければ。多角的に学生の現状を確認していこうとやれた良い会だった。次年度に向けて、学内でこの会議に出ますと言った時に、何の会議か分かりづらい、タイトルからも工夫が必要。
〇他の大学生の現状が知れて良かった。そこからどうすれば良いのか、それを広めていくのか、どういう方向にしていけば良いのか、どうやって自分の経験が活かせるのか、思いながら出ていた。マスコミの方がという話もあった。大学生の実態を一般に広めていくことなのか、いろいろな課題を解決する方向なのか。研究会のことも生協の学生委員会も知らないので、生協関係者へ知れせることもそうでない人への発信も大事だと思った。
〇最初はどういう会か分からない状態で入らせていただいた。個人的に良かった点は、自分が九州大学のコミュニティにしかいないが、岐阜大など他大学の現状、オンライン授業がどうかとか全体を知ることができた。地域毎に違う対応をしていることを知る良い機会になった。自分だけの世界観だけに終わらない、自分の視点が広くなった。改善点として、学生側の意見が少し偏りがちなのもあるのかな。ここにいる学生は大学生協所属が殆ど。他に所属していたり、他にコミュニティを持っているような人の視点もあればいいと思う。運動をしている人とか、別のサークルに所属している全く違う視点を持っている人を入れて、新しい意見を入れてもいいのかなと思った。
■大学生協さんと「学生の生活リスク講座」を前から行なっていたが、コロナで開催できず、コロナ禍であるいは今後どうしようか議論していた。学生さんがどう思っているか話が聞きたいと言った所、参加された学生さんから、自分たちが今の状況の中で、声が聞きたいとか聞かれるばかりで、聞かれたからと言って、何かが有る訳でもないし、何かが変わる訳でもないしと、不満・批評的な言葉を言われて、結構胸に刺さった。色んな状況が分かるとか、何か話が聞けるとか、そういうことで皆さんに何かができるのか、役立つことが展開できるのか、頭を悩ました。一方コミュニケーションは学生の中でも、同じ学年で同じ体験・境遇のコミュニケーション、違う学年の今の３年生と今年入学したりこれから入学する学生の、タテ同士のコミュニケーションとか、もしくは大学を超えた、ウチはこうだが違う大学ではこうだなど、大学の枠を超えた学生同士のコミュニケーションなど、結構大事だったり、必要だったり、いざという時に役に立つのかな。加えて、大学生目線ではなく、大学組織としての取り組みの中で、各大学の良い面、失敗した面もあると思うので、大学組織間でのコミュニケーション、オンライン授業、学生の健康、メンタルヘルスなどの取り組みも、大学同士のコミュニケーションもあればいいかな。
●前年の全国大学生サミットで沢山の学生の意見を聞けて良かった。今回の研究会で学生の意見が聞けてとても役立った。普段の学生相談では、学生がどう受け留めているのか直接聞くことがないので。生協の学生委員の意見が、具体的なフィードバックを得る上で、とても参考になった。
●大学の中で今は IT 絡みでしか学生とはお付き合いが無い。様々な全体を見るという形で、様々な学生の話は貴重。コロナに慣れてしまい、学校でも対面授業をしているが、総括をしないままで来ている。では僕たちはこんな大学にしたいのだ、ということを語ることが凄い苦手。学生さんにとってこうとか、社会がこういう期待をしているとか、こういう所はもう少し支援してくれないで、これでやれってか？とか明日に向けて次のことを考える中で、今回の経験をどう活かすことかな、と思っている。
▲大学共済連から日本コープ共済連になって、組織が大きくなる中で参加できず。学生の参加が増えていくと良いのでは。広報や参加の広がりが課題。私の課題はコープ共済連に情報連携をして、案内をしたり、必要な情報を引き出しとして持ってこられたら。
■マスコミの参加が少ない。コロナで学生はどうなってるのか、大学はどうなっているのかに注目。生協ルートでもそれ以外でも取材させていただいた。改めて今回取り上げられたテーマは、正直言って新しい発見はなかった。そこら辺が記事になりずらかった理由。これまで報じられたたり指摘されたりした事の確認だった。同じ事を書く事がない事は無いが、何度か書いてきたかなという事。私だけではなく、他のメディアも。今回発表され

た、サークル所属率が戻っていないことは、授業などは改善されて元に戻りつつあるが、最後に残っていることで、記事にさせていただいた。全体のタイトルを分かりやすく、副題もつけて、どういう人が参加しているか、１回１回事前にこういう話がでます、サークルのようにこれまであまり報じられていないようなテーマがありますよ、というアピールを。テレビになるなら、映像、動画でオンラインの活用もまだまだ可能性もあるか。
■１年前から参加。私の専門は取材系ではなく、アウトプットに協力できずにいた。社内で情報共有はした。この取り組み自体のアウトプットは中々できなかった。ただ大学生協さんと学生の悩みに応えるというイベントは、実施することができたので、別な形のアウトプットで、放送とインターネットの youtube チャンネルでのご紹介でやることができた。アンケート結果を放送で紹介するのは中々映像系では結構難しい。テレビ的に使うと、直接インタビューの声が無いと信憑性が出てこないという難しさがある。逆に放送ではなくネットで動画など NHK のチャンネルで出す事は可能なので、今後そういう方向で一緒にご相談できれば。
▲21 年の全国大学生サミットが学生ど真ん中でホップ、今回 22 年の研究会がステップ。ホップは外向き、ステップは内向きで、連携横串で熟成のイメージ。試行錯誤する事自体に大きな意味がある。23 年は色々議論して、学生ど真ん中、連携で横串を刺して、様々な化学反応でメディアの方にも反応してもらえるような、ジャンプにつながるよう、コロナ明けが楽しみ。最後５０の危険とリスク講座が外向き発信した。化学反応を起こして、面白おかしく皆さんと出来ればいいな。
▲色々な先生の話、学生さんの生の声を聞けて、面白かった。　　さん　　君に共感。もっと外への広がりと、研究会やって、次に何になるのか、学生のためにできることに、つながっていない。
◆大学生サミットの成果をどう受け継いでいくのかの議論の中で、この研究会が立ち上がった。コロナ禍の学生の姿を追い続けたのは非常に価値があった。先生も多様にきていただいたので、多角的に学生の姿を見れて、分析できた。次年度に向けて、実際に学生はどうなんだについては、学生は多様化していて、学生自身が赤裸々に、今私自身はこうで学生生活のこだわりはこうでという事を、話をしながら深めていくような運営ができればいいなと思っている。
（事務局が 23 年度提案）
◎23 年度について　　さんから。
◆コロナ禍で学生が多様になっている。授業を受けて、サークルやって、バイトして、事ではない学生生活が広がっているような印象があるので、実際大学生活でどういったやりがいを感じているのか。中には大学の授業以外の所で活躍されている方も沢山いるので、そういう方のモチベーションは何なのか、色々と面白そうな学生を連れてきたり、逆に学生相談を経験されている学生の気持ちを話していただいたり。コロナ禍の後の学生生活はどんな重点があるのか、だったら生協はこんな事を考えないといけないんだとか、考えられるようなディスカッションを、１年目は教員の方に色々お話いただいたが、２年目は学生さんに沢山登場していただいて、学生さんの声を聞くのがいいのではないか、と事務局会議でも話したので、そういう事にご意見をいただければと思う。
▲サミットをもう１回やりたいと言った覚えは無い。趣旨としては、全国大学生サミットは、一般の学生もたくさん来て、ちょっと元気をもらったという感想も沢山あったので良かったという思いもあった。研究会に参加した学生は生協関係ばかり。話は面白かったが、どこがどう学生のためになったのか、もやもやが少しあるなあ。やるんだったら、一般学生も来て面白い、来て良かったというような事が１回でもできるといいなあと思う。NHK と一緒にやったイベントは、生協の無い大学の学生も含めて来た。学生委員でしたが、東京で対面で行ったが、新潟から来た学生も二人いた。熱気のある話もあった。彼らは来て良かったんだなと思った。
◎一つ大きな点は、テーマ、タイトルのどこに焦点を明確化するかもあるし、もう一つは、学生が前面に出ていただいて話していただける形の方がいいのでは、という意見もあるし、私も少しそういう気持ち。ここに集まっている学生は意識が高い。高い意識を持った学生が集まって議論、これが学生の平均か？どうやったら偏らないかは難しい話なので、とりあえず高い意識を持った方に話してもらい、大学生協があるという枠組みにこだわらずに、場合によってはオープンに参加いただく形も良いと個人的には思っている。テーマとか参加形態、今回のような先生方の基調報告に対してという形から、学生さんに話していただいてという形式に移るとしたら、皆さんどうでしょうか？賛否、工夫、アイデアを皆さんお持ちだと思いますし。フリーディスカッションで。思いつきで結構ですので。
■学生の発言、思いを語ることを学生に聞いてもらって共感するとか、成程自分もそうして見たいなと思うとか、そうした機会ができるといいなと思うが、学生サミットの頃とは違って、今の大学生、これから入ってくる新入生の大学生は先輩に何を聞きたいのかに関して、分からなくなってしまう所もあって。この３年間コロナ禍だけ

で過ごした学生が、今から入る新入生に何を伝えたいのか。そういう所の整理とか、こういう事を言って欲しんだよとか、何かしたい事はありますかとか、そういう切り口がきっといるんじゃないかなと思った。ただそういうコミュニケーションは是非とるといいなあと強く感じている。
●個人的には生協の現場にいる人間からすると、折角ここで出た意見、学生の声を聞いたりあるんですが、具体的にこれをやってみようとか、提案とか、何か動き出せるものがあると良い。少し趣旨がずれるのはわかっているが、研究会から何か提言があった方が、現場としてはやってみようとなる。以前お話しをしたつながりというキーワードで、つながり作る事例を取り上げて、それを横展開できれば、存在意義もある。我々が集まって意見を聞いて、それを何か形にして、つながりを作っていくことができるのではないか。会の趣旨とはずれるかもしれないが、何か提言とか何か実働で実際に動かせみると、やれたらいいな、と次の年度のご提案。
◆つながりを作るのは非常に大事。今回の学調の結果も、大学生活の充実度も元に戻っている。グロスの数字だけ見たら、大学生は最初は大変だったけど、何となく元に戻ったね、だけになっちゃう。けどそんな事はなくて、いやいや大変な子も中にはいるんだ、と私としてはこだわらなくてはいけないと思っている。この間 NHK を見ていたら、下北沢で学生が古着屋を開業して、そこにつながりが欲しいなあという学生がふらっとやってくる。古着の話をしながらつながりが増えていく、そういう店があるんだ。そういうつながりの作り方もあるんだなあ、と感動したというかびっくりした。そういう大学生自身が取り組んでいることに色々スポットを当てたら、「そういう風にすればいいんだ」「僕もチャレンジしてみたいな」という気付きが生まれたりするのではないか。そんな事をいろいろ取り上げてみたいなと思った。
▲３年間コロナで過ごした高校生が入ってくるのは、とても興味深い。先日ビブリオバトルの高校生の全国大会が、大阪茨木の立命館であって、生協専務と行ってきて、とてもかっこよかった。ロールモデルとしてそういう新入生に登壇してもらう。一昨年全国大学生サミットで、立命館の原いこいさんや現役でアメリカから中継で出た人もいて、そういう人にコロナの後、元気な報告、発言をしてもらって、それを糸口に新たに発信できたら、メディアの方含めて興味が向いてくるのでは。ロールモデルとして是非と思っています。
◎ビブリオもある意味つながるという事に関連していると思いますね。ビブリオは人を通して本を知るという事と合わせて、本を通してその語り手の人を知るという事ですから、その双方向性が大事なので、ただ単にチャンプ本が出ればいい、という事ではなさそうなので、つながりという事をベースにしている。色々あるのかも分からないですね。
■調査の結果がこうでした、というアウトプットは出し方が難しい。昨年も５、６回、学生が取り組んでいる活動を取材して紹介した。例えば SDGs に取り組んでいる学生の実際のアクションなどを紹介することで、今の学生はこういう事に興味・関心がある、ということを調査の結果からご紹介する。報道というよりは、日常の活動をご紹介することから学生の実態はこうなんだということをご紹介できる。この研究会の中から、その情報をいただけると、我々としても色々な形でご紹介できる。
◎取り組み事例がキーワードになりそうですね。
〇委員会の後の雑談の時間のフリートークが、他の学生の話が聞けて、自分の周りにこんな人がいるよと自分も話せたり、他の人の話が聞けるのが面白かった。あの時間は良かった。会を重ねるにつれて、自分の周りの状況を割と話してきちゃった。僕が見えている周りだけではなくて、他の人の周りには他の状況もあるので、委員に限らずに、他の学生が感じていること、他の学生の周りの人の状況がたくさん話せる場が、この研究会で設けるべきかは分からないが、そういう機会がどこかで作られたら、研究会だけでは見えない所が見えてくる。特に僕らの１個上が卒業すると、学部生全員基本的にコロナ前を知らない状況になるので、コロナ前という概念すら無くなってくると、状況がより様々になるのかなと思うので、色々な学生の声を、アンケートや調査も大事だが、生の話を深掘りできる機会があったらいいのかな。
◎フォーマルな研究会の後にフリートークをやって、演劇でも落語でも楽屋の方が面白くて、楽屋師匠がいる。そういう時に本音が出る。その面白さがある。そういうインフォーマルも消さずに。ただインフォーマルだけではこの研究会も成り立たないので、そういった良さも保ちながら、そう言った本音が表でもじわじわと出てくるといいかなと個人的には思いました。そういう本音も皆さん聞きたいし語りたいし、その本年が様々違っているな、というのも我々インフォーマルなフリートークで皆さんから教えてもらった大事な事でもありました。他によろしくお願いします。学生として話しにくいなど、障害など感じた事はありましたか？釘宮さんいかがでしょうか。
〇オンライン上で画面オフマイクオフにしてできるが、画面オンマイクオンにする段階でハードルを感じる。空

気づくりをしないといけないかな。そこは深層心理的に思っちゃう部分はあるのかなと思います。自分で緊張しながらしゃべっているんで。そこはあります。
◎どうしたら皆さん話しやすくなりますか？工夫やアイデアがあれば。
〇皆ながカメラオンは難しい。チャットが活発に動いている。意見を活発に出されたり、その時その時で、次の発見になるようなコメントをされているのですが、気軽にする感じに、もう少しフランクにというのであれば、少し閑話休題のトークテーマがあると良いかな。研究会の内容とは少しそれてしまうかもしれないし、本題にはならないとは思うんですが、他の話題で場を温めるのもありなのかな。
◎皆さん意識の高い学生さんで、立派な意見を言うので、中々しゃべりにくい面はあったのではないかなと想像します。学生が発表したらもう少し発言なんか和らぎますか？
〇何か準備して発表するのはテーマにもよるが、自分が関心のあることであればしていきたいかなと思うが、学生の一意見として言って良いのかという不安もある。自分一人の独りよがりになっていないか、という。テーマにもよると思うが、コロナ禍の授業関連なら本当に大学によって様々だと思うので。個人的意見として言って良いのであれば、と自分に言い訳をしながら、そう言う事をしても良いのであれば、個人的な思いにはなりますけどという前提条件を置いてしゃべることは、学生としても少し気軽に意見がしやすいのかな。
◎意見を促す方としても、自分の体験を元にどうですか、という聞き方のほうが、あまり一般論で聞かれるよりは答えやすい、しゃべりやすいということですね。確かにこれまで悪い意味じゃなくで、権威の先生方が凄く面白い話をされるので、質問やコメントはちょっと敷居が高かった所があったんですかね。
〇私は理系学生で就職面にはうといので、自分が有用な意見が言えるのかという一抹な不安があったので、発言一つ一つにこれを言って大丈夫だろうか、もあったので。
〇僕は話にくいと感じた事は無い。この研究会は学生の意見を尊重したり、共感してくれるので、僕は何を話しても、共感したりそういった事があるんだと受け取ってもらえたので、話しやすかったかなと思う。確かに学生と大人の比率がかなり大きく違った。学生が一杯いたら学生同士の共感で、自分の周りでもこんな事がある、みたいな発言、学生同士の共感の発言がしやすかったりしたのかなあと聞いていて思った。。
増谷：お二人の話を聞いてそうかなと思ったのは、普段のオンライン授業では、カメラオフが多いそうですし、私も含めておじさん達が知っているような感じがあると、なかなか話しづらいのかなあ。例えば司会を生協の学生、今の学生ではないかもしれない、今の学生に非常に近い、の方に事前に良く話をして司会をしてもらうだけでも、随分話しやすさが変わってくるのかなあと思う。テーマは事前に調整されているのかもしれないが、学生達が知りたい事と私たちが知りたい事が、どれだけ一致しているかははっきり分からないが、学生達が話しやすい事もあるので、もう少し、私たちおじさんではなくて、参加してもらうなら若い方の発想だったり、仕切り、司会をやってみるだけでも、随分印象が変わって、参加しやすいなあと思ってもらえる、と思います。
●皆さん学生さんの発言がとおっしゃっていましたが、私の知っている学生さん達と比べると遥かに発言されているので。逆に言えばびっくりして聞いてます。学生ど真ん中で司会も面白い。全国大学生サミットも学生さんが仕切ってやっていた。全国大学生サミットは参加させていただいて、とても、専門的にも勉強になりましたし、皆んながあれに向かってエネルギーを集中するのは、とても良かったし、またやってもらえたらと思いつつ、アフターコロナなので同じものはできないでしょうし、何ができるのかは分からないですけれども、何かでできればいいなあと思いました。
◎大学生サミットは学生から盛り上がったような気がしましたけれども、いかがですか？大人が引っ張ったのではなくて、学生さんが割と乗り気で、そういう雰囲気を感じましたけど。
▲その通りですね。緊急アンケートをやって結構悲痛な声がたくさん出て、当時の学生委員長が何かやりたいということで発案して、専務と私の所に相談しに来て、じゃあやろうと。その時はコロナで皆んな大変だと思っていた。なので何かやらなきゃと思っていたのがあったんだろうと。それで実行委員を学生を含めてあちこちから集めて、手分けしてする中で、学生のリード役の人も入ってもらって、当時は　　先生にも力を貸していただいてやっていた。　　先生の出ていただいた分科会も、どの分科会も学生と大人と混じりあって、同日に向けてこんな風にしよう、誰にでてもらおう、こんな話をしよう、と何回も積み重ねて当日を迎えた、という感じでした。思い出話みたいで。
米山：そのお話はとても有用で、あの時のエネルギーとかパワーとか、発案してから実行に移すまでのスピード感とか、端で見ていて凄まじい感じがしました。あれのパワーを今もしやるとしたら、同じものはできにくいかなという気がするんですけれども、やれたらいいなと思う反面、コロナ禍の一種独特なエネルギーみたいなもの

があったように感じますが、その辺はいかがですか？私の感覚がちょっとずれてますかね。
◆　　先生おっしゃるように、当時は自分たちの学生生活がえらい事になっている、という認識が強かったんですね。その事について、20 年は兎に角ひどかった、21 年ぐらいからちょっとづつオンライン講義に慣れてきたこともあって、あの時のサミットのテーマも、大学生は実は頑張ってるんだ、という事をスポット当てて紹介しようぜ、みたいな。なのでアメリカへの留学生を呼んできて、アメリカはこうだからとのやりとり。その辺りがあの時独特のエネルギーがあったかなあと思うので。今同じようかというとそうでもないので、今は多様な学生を色々と捕まえてきて、登場させて、ああこんな大学生活もあるんだ、というような事を皆んながちょっとづつお話したら、凄いためになる、そんな感じかなあと思うんです。
◎私それを言い出したのは、大学生サミットができないという事ではなくて、もうやることはあれだし、やっていただきたいなあという気持ちはあるんですけれども、同じやり方では、あれをもう一度では難しいと思うんで、準備期間が必要で、学生さんの協力やこちらのサポートが必要かなと思った次第です。ただ大学生サミットがここの話題ではないので、あまり深入りできないかもしれませんけれども。
▲最後に　　先生から簡単にまとめを。
◎皆さんたくさんご意見ありがとうございました。一言では言いにくいんですけれども、生協ですから、つながりということが一つのキーワードだということがあります。もう一つは、単なる抽象的なつながりとか、つながりがいいよ、ということではなくて、また調査だけではなくて、そういった取り組みというものを、学生さんの中で、ちょっとでもそういうものがあったら、そういったものを紹介してもらったり、それを学生さんで考えたり、という「とりくみ」と「つながり」を結びついていったら、学生主体になればいいかなあ、と思うんです。ただ「つながり」と言っても色んな「つながり」があって、精神的なものを通した「つながり」とか、生活、今特に経済的な問題って凄く大きくって、半分ぐらいが奨学金を貰って、奨学金という名前のローンを貰って大学へ行っている時代ですから、やはり生活、経済を含めて、そういうその中で「つながり」ってあるかもしれないですね。大学なんか介して、フードバンクとかそういう活動も、学生がコミットしたり、生協がコミットしたりしてますので。あと学習の「つながり」。「つながり」と一言にいっても色んなダイメンジョン？？dimension??があるので、そういう中から、抽象的な話ではなくて、学生さんの活動とか、学生さんの意見として展開していければいいかなあ、と私はまとまりにはなりませんけれど、ちょっと思った次第でございます。以上です。